

「絵を売りたいのだが、どうしようか。もしできたら画廊で買ってほしい」。月に二度や二度はこんな電話が入ってくる。先日持ち込まれた絵はその典型であった。

毎年奥で開かれる某有名絵画展で、五、六年前に数百万円で買ったやうな「絵のいじり」が、日本では大勢有名な先生の絵で、現在では当時の二倍の値段になっていくやういので換金した」と言ふのである。また「ある政治家が一月もあつて、少女無理をして買つてしまった」とも初巻の

男は説明をした。

私は困ってしまった。沖細は美術マーケットも成長してないし、画廊で買い取れる訳もない。また、お客さまが希望する金額で売れる絵でもなければ、東京

取りあえず、その絵を売った東京の画廊に電話を入れてみた。「大勢申し訳ありません。一度お売りした絵は買い取りない原因になっております。どうぞお引き取り下さい」。テヘネ

つまりその画家の絵は引き合ひがないのである。換金できない絵であることが知つたお客はガックリ肩を落としてしまった。何とも高い授業料である。本土からの画廊が沖細で売

# 唐獅子

## 美術コレクター

上原 誠勇



カット・翠宮城セン

のフリーマーケットで通用する大画家の絵でもない。大先生の絵と信じ込んで、いい値で換金できたらと期待してゐるお客さまは、納税と説明をするのは難い。

いに冷たく電話を切られてしまった。フリーマーケットのオークション会社も数社にも電話をしてみた。案の定「お持ち品はな

回りの絵画展が一流として幅を利かすのも沖細だけである。美術界のない泉の、本物を見るチャンスのない民族の悲劇と言へる。聞ては、悪いが、ホサ

(画面沖細代表者)

絵は年間一億

円近いと言わ

れる。沖細は

日本で一番シ

ロウ下絵が売

りやすい地だ

という話もある。聞ては